

東北地方北部の中世城郭にみられる 掘立柱建物跡について

高 島 成 侑*

On the Ruins-Buildings of the Medieval Castles in the Upper Northeastern Section of Japan

Seiyu TAKASHIMA

Abstract

Today, the many ruins-Buildings of the medieval Castles are excavated in Japan. These ruins-Buildings brought the new data on the history of Japanese Houses. In these ruins, SHUDEN---the main hall, KYAKUDEN---the reception hall, or the shanty and the warehouse, --- etc., are contained in one area enclosed by earthwork.

In this report, we speak about the scale, the plane, and the structure of these ruins-Buildings.

1. はじめに

今日、中世までさかのぼりうる住宅の遺構は非常に限られたものであり¹⁾、さらには、中世城郭内の建物の姿について知りうる資料も、二・三の絵巻物などに描かれたものにすぎなかった。しかし、昭和42年から始まった福井県の一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査を契機として、各地で中世城郭の調査が行われ、多くの掘立柱建物跡——東北地方北部においては竪穴式建物跡と共伴して²⁾——が検出されるようになり、中世城郭内部の建物の姿についての知見は、この北東北の地方においても、膨大な資料を有することとなったのである。

東北縦貫自動車道や東北新幹線といった巨大開発ばかりではなくて、さまざまな大小の開発事業に伴う中世遺跡の発掘調査が行われているのである。青森県でも堀越城跡や尻八館跡、源常平遺跡などで調査がなされた一方では浪岡城跡や根城跡では国指定史跡として発掘調査が継

続的になされている。秋田県でも鷲沼城跡をはじめ、館コや下タ野遺跡、桐木田遺跡などが調査されているのを見ることができ、岩手県では、繫一III遺跡や丸子館跡・大瀬川館跡・鹿島館跡・柳田館跡など、多くの中世城郭が調査されている。これらは東北地方北部における中世城郭の内容を示す一大資料としてとらえられるものである。

これまでにみられる中世城郭に関する論考の多くは、その立地論や各郭の配列にみる形式について論じるのみであった。しかしこれらの調査された城館跡においては、そのなかに建つ建物の規模や種類について、あるいは郭のなかでのそれらの配置の在り方についてまでも、近い将来には論じうる可能性を示しているのである³⁾。

この小稿では、これらの城郭の調査において検出された掘立柱建物跡のなかから、若干の例を選ぶかたちで、その規模や間取りについて、あるいはその上屋構造について推察し、現段階での考察を述べるものである。

昭和58年12月5日受理

* 建築工学科助教授